

放射性廃棄物処理・処分 スケジュール

分野名	括り	作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後1ヶ月の予定	5月		6月				7月			8月			9月	備考			
				22	29	5	12	19	26	3	10	17	24	31	7	14		21	28	
固体廃棄物の保管管理、処理・処分計画	1. 発生量低減対策の推進	持込抑制策の検討	(実績) ・運用開始準備	検討・設計																
			(予定) ・運用開始準備		現場作業	運用開始準備														
	ドラム缶保管施設の設置		(実績) ・実施計画変更認可申請対応 ・固体廃棄物貯蔵庫第9棟にかかる建屋工事 山留工事 掘削工事 杭工事 躯体工事	検討・設計																
			(予定) ・固体廃棄物貯蔵庫第9棟にかかる建屋工事 掘削工事 躯体工事		現場作業	固体廃棄物貯蔵庫第9棟にかかる建屋工事														
			掘削工事																	
	躯体工事(基礎)																			
躯体工事(基礎)																				
躯体工事(地下2階)		最新工程反映																		
2. 保管適正化の推進	覆土式一時保管施設3,4槽の設置	(実績) ・設置工事(3槽) 緩衝材施工、遮水シート施工 ・設置準備工事(4槽) 4槽エリアレール一時撤去 ・設置工事(4槽) 4槽掘削 下部遮水シート設置	検討・設計																	
				(予定) ・設置工事(3槽) ・設置工事(4槽) 保護土施工 観測孔設置 全面テント移動 ガレキ減容・運搬・収容	現場作業	設置工事(3槽)														
	設置工事(4槽)																			
	下部遮水シート設置																			
保護土施工、観測孔設置																				
全面テント移動(4槽側レール設置含む)																				
ガレキ減容・運搬・収容	受入開始時期調整中																			
一時保管エリアの追設/拡張		(実績) ・伐採木一時保管槽の追設・拡張に向けた準備 ・伐採木一時保管槽の追設(エリアG)完了 保管槽擁壁設置(追設28槽分)完了 盛土施工完了 転落防止柵設置完了	検討・設計	伐採木一時保管槽の追設・拡張に向けた準備																
				(予定) ・伐採木一時保管槽の追設・拡張に向けた準備	現場作業															

・2015年7月17日：実施計画変更認可申請認可

・2017年2月：竣工予定

・2014年8月12日：安全協定に基づく事前了解

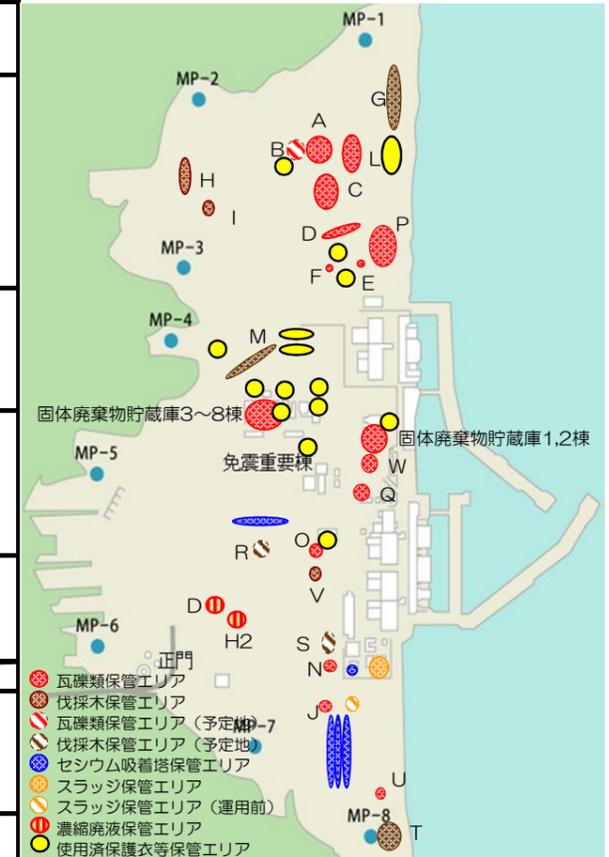
・2015年11月13日：使用前検査(3槽)



## 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2016.5.31 時点)

分類	保管場所	保管方法	エリア境界 空間線量率 (mSv/h)	保管量※1	前回報告比※2 (2016.4.30)	変動※3 理由	エリア 占有率	保管量/保管容量 (割合)	トピックス		
瓦礫類	屋外集積 (0.1mSv/h以下)	C	屋外集積	0.01未満	56,800 m <sup>3</sup>	+1,900 m <sup>3</sup>	①②③④	90%	125800 / 177900 (71%)	・エリアCの破碎コンクリートの再利用実施。 ・フランジタンク解体片 エリアPにて一時保管中。(2015年6月15日～) 2016年5月末時点で230基(コンテナ)保管。	
		F	屋外集積	0.01未満	5,900 m <sup>3</sup>	微増 m <sup>3</sup>	—	78%			
		J	屋外集積	0.02	4,300 m <sup>3</sup>	+300 m <sup>3</sup>	⑤	89%			
		N	屋外集積	0.01	4,200 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	42%			
		O	屋外集積	0.01	26,200 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	95%			
		P	屋外集積	0.01	27,700 m <sup>3</sup>	+800 m <sup>3</sup>	①	43%			
	シート養生 (0.1～1mSv/h)	D	シート養生	0.01	2,600 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	88%	36100 / 57300 (63%)	・エリアE、エリアPの瓦礫類について、リスク低減の観点から 容器収納へ移行中。	
		E	シート養生	0.02	7,600 m <sup>3</sup>	+900 m <sup>3</sup>	②⑥	47%			
		P	シート養生	0.01	4,900 m <sup>3</sup>	+100 m <sup>3</sup>	⑦	54%			
		W	シート養生	0.02	21,000 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	72%			
	覆土式一時保管施設、 仮設保管設備、容器 (1～30mSv/h)	L	覆土式一時保管施設	0.01未満	12,000 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	100%	20400 / 27700 (74%)	・覆土式一時保管施設(第3槽) 瓦礫類収納完了:2015年8月21日 仮覆土:2015年10月26日完了	
		A	仮設保管設備	0.32	1,800 m <sup>3</sup>	+100 m <sup>3</sup>	②	25%			
		E	容器※4	0.02	300 m <sup>3</sup>	微増 m <sup>3</sup>	—	19%			
		F	容器	0.01未満	600 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	99%			
	固体廃棄物貯蔵庫	固体廃棄物 貯蔵庫	容器※4	0.02	6,900 m <sup>3</sup>	微増 m <sup>3</sup>	—	57%	6900 / 12000 (58%)	・主な瓦礫類は、1～3号機建屋で発生した高線量瓦礫類。	
											Q
	合計(ガレキ)				189,200 m <sup>3</sup>	+4,000 m <sup>3</sup>	—	69%			
	伐採木	屋外集積 (幹・根・枝・葉)	H	屋外集積	0.01未満	14,700 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	74%	65200 / 81500 (80%)	・工事により発生した幹・根を随時受入中。
			I	屋外集積	0.01	10,500 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	100%		
			M	屋外集積	0.01未満	39,300 m <sup>3</sup>	+100 m <sup>3</sup>	⑥	87%		
			V	屋外集積	0.03	700 m <sup>3</sup>	+500 m <sup>3</sup>	⑧	12%		
一時保管槽 (枝・葉)		G	伐採木一時保管槽	0.01未満	8,500 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	65%	19600 / 24900 (79%)		
	T	伐採木一時保管槽	0.01未満	11,100 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	94%				
合計(伐採木)				84,900 m <sup>3</sup>	+700 m <sup>3</sup>	—	80%				
保護衣	屋外集積	容器	0.04	66,500 m <sup>3</sup>	-2,500 m <sup>3</sup>	⑨⑩	89%	66500 / 74500 (89%)	・雑固体焼却設備の運用開始(2016年3月18日) ・使用済保護衣等焼却量 497t(2016年5月末累積) ・焼却灰のドラム缶数 44本(2016年5月末累積)		
合計(使用済保護衣等)				66,500 m <sup>3</sup>	-2,500 m <sup>3</sup>	—	89%				

- ※1 端数処理で100m<sup>3</sup>未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。  
 ※2 100m<sup>3</sup>未満を端数処理しており、微増・微減とは100m<sup>3</sup>未満の増減を示す。  
 ※3 主な変動理由: ①タンク設置関連工事 ②1～4号建屋周辺瓦礫撤去関連工事 ③破碎コンクリートの再利用 ④エリア整理 ⑤焼却対象物の受入  
 ⑥フェーシング工事 ⑦リスク低減対策による容器収納 ⑧敷地造成関連工事 ⑨焼却処理 ⑩使用済保護衣等の受入  
 ※4 水処理二次廃棄物(小型フィルタ等)を含む。



## 水処理二次廃棄物の管理状況(2016.6.23時点)

分類	保管場所	種類	保管量	前回報告比 (2016.5.19)	保管量/保管容量 (割合)	トピックス	
水処理 二次 廃棄物	使用済吸着塔 保管施設	セシウム吸着装置使用済バessel	734 本	0 本	3192 / 6239 (51%)	・吸着塔一時保管施設の増容量が認可(2015年12月14日)	
		第二セシウム吸着装置使用済バessel	164 本	0 本			
		多核種除去設備等保管容器	既設	1,162 基			+9 基
			増設	869 基			+17 基
		高性能多核種除去設備使用済バessel	高性能	73 本			0 本
		多核種除去設備処理ラム	既設	9 塔			0 塔
モバイル式処理装置等使用済バessel及びフィルタ類		181 本	+1 本				
廃スラッジ 貯蔵施設	廃スラッジ		597 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	597 / 700 (85%)	・除染装置の運転計画は無く、新たに廃棄物が増える見込みは無い。 ・準備が整い次第、除染装置の廃止について実施計画の変更申請を行う。	
濃縮廃液タンク	濃縮廃液		9,183 m <sup>3</sup>	+14 m <sup>3</sup>	9183 / 11100 (83%)	・タンク水位の変動は、計器精度±1%の誤差範囲内。(現場パトロール異常なし) ・H2エリア(9,700m <sup>3</sup> )の撤去計画が認可。(2015年10月1日) これまで、8,900m <sup>3</sup> を供用廃止。 ・保管量に「タンク底部～水位計0%の水量(DS)」を含んでいない。(約100m <sup>3</sup> )	

